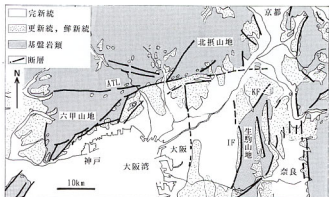
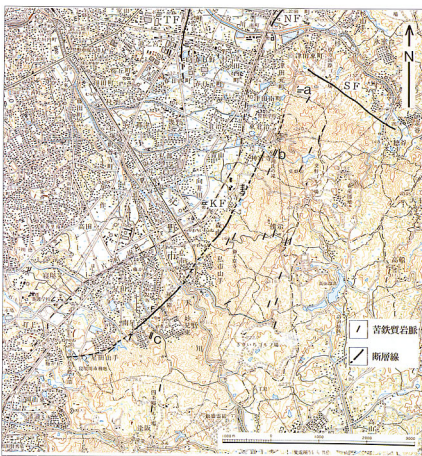


活断層の起源を考える ー大阪東北部交野断層と苦鉄質岩脈群ー



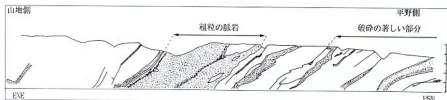
1. 京阪神地域の断層分布。市原ほか(1991)による。ATL:有馬-高槻構造線, KF:交野断層, IF:生駒断層, 生駒山地および六甲山地の基盤岩は白亜紀後期花こう岩類。

大阪平野東北部には、多くの活断層が認められる。そのうち交野断層は生駒断層とともに、生駒山地と大阪平野を区切る地形的に明瞭な活断層である。本断層沿いの各所で、領家帯の新期花こう岩(白亜紀後期)を貫く苦鉄質岩脈群によって特徴づけられる露頭が見られる。活断層をはじめとする断裂系の起源について論じた研究事例は少ない。眼前の破砕された岩脈群は断裂系のひとつの起源を物語っているようにも思われる。(大阪府立枚方高等学校 貴治康夫・京都教育大学研究生 木谷幹一)



2. 苦鉄質岩脈の貫入方向と位置。活断層研究会(1991)に基づいて交野断層線の他、主な断層線も示す。
 KF: 交野断層, NF: 長尾断層, SF: 杉断層, TF: 田口断層。
 次の3地点で岩脈群が見られる。
 a: イオン工学センター敷地,
 b: 交野市倉治のリトル・シニア球場,
 c: 南星台の露頭。
 景守(1986), 前田(1965), 益富(1956), および筆者らの調査による。
 国土地理院5万分の1地形図「大阪東北部」を使用。

3. 交野市倉治の露頭スケッチ。垂直方向のスケールは水平方向と同じ。岩脈の傾斜は粗粒の岩脈を境として60-88°から25-55°Eへと変化する。



0 5m

苦鉄質岩脈 花こう岩



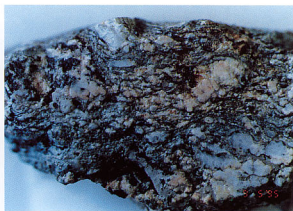
4. (上) 倉治の露頭の全景、岩脈(暗色部分)と花こう岩(明色部分)が見られる。前頁3.を参照。



5. (左) 倉治の岩脈の産状、脈岩は主に角閃石と斜長石からなり、玄武岩の組成(SiO_2 約 51%)を示す。写真の左側に粗粒の岩脈が見られる。岩脈内部にも破碎帯が認められる。貫入面は $\text{N } 20^\circ \text{ E}$, 50° E 。崖の高さは約 4.8 m。



6. 著しく破碎された岩脈と花こう岩、岩脈(暗色部分)の方向・傾斜は $\text{N } 55^\circ \text{ E}$, 55° E から $\text{N } 55^\circ \text{ E}$, 25° E へと変化する。



7. 岩脈の貫入面に接する部分の花こう岩の様子、岩脈の貫入面に垂直な面を研磨したもの、試料の上面(貫入面)には、変質粘土化した苦鉄質岩が接していたが水洗時に失われてしまった。貫入面に平行な面構造が縞状になって観察される。写真の横幅は 5.2 cm。



8. 南星台の造成地の露頭、幅約 11 m の岩脈(暗色部分)と花こう岩(明色部分)はともに著しく破碎されている。岩脈は $\text{N } 20^\circ \text{ E}$ 方向に貫入し、東に急傾斜する。